

[平成17年度普及に移す技術]

[成果情報名] 一寸ソラマメ栽培における石灰窒素増施の効果

[要約] 一寸ソラマメ栽培における基肥一括肥料に、石灰窒素を加用することにより莢肥大期まで肥効があり増収効果が高い。

[キーワード] 一寸ソラマメ、マルチ栽培、石灰窒素

[担当] 福井園試・野菜花き研究グループ

[連絡先] 電話 0770-32-0009、電子メール enshi@pref.fukui.lg.jp

[区分] 関東東海北陸農業・野菜

[分類] 普及

[背景・ねらい]

栽培期間が長い一寸ソラマメ栽培ではマルチ栽培が普及し、基肥一括施肥が一般的となっている。しかし土壌中の養分は、開花期から莢肥大初期までに、作物に利用されたり雨水や融雪水等によりかなりの量が流亡する。このため、溶出が100日タイプといわれる石灰窒素の加用効果について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 基肥一括肥料として被覆肥料を利用する場合、溶出型は100～140日型が適当である(図1)。
2. 基肥肥料に石灰窒素を10a当たり20～40kg加用することで、莢肥大期の土壌中無機態窒素濃度は、慣行肥料のみの場合より15%多い状態で経過し(図2)、収量が15～20%増加する(表1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 基肥肥料となる石灰窒素は、畦部分に施用し、高畝としてマルチ被覆する。
2. 越冬～融雪期間中の圃場排水を確実にを行い、肥料の流亡を最小限にとどめる。
3. 窒素成分1kg当たりの価格は、石灰窒素が約650円、IB肥料が約1150円、被覆燐硝酸カリが約1700円であり、石灰窒素が最も安い。

[具体的データ]

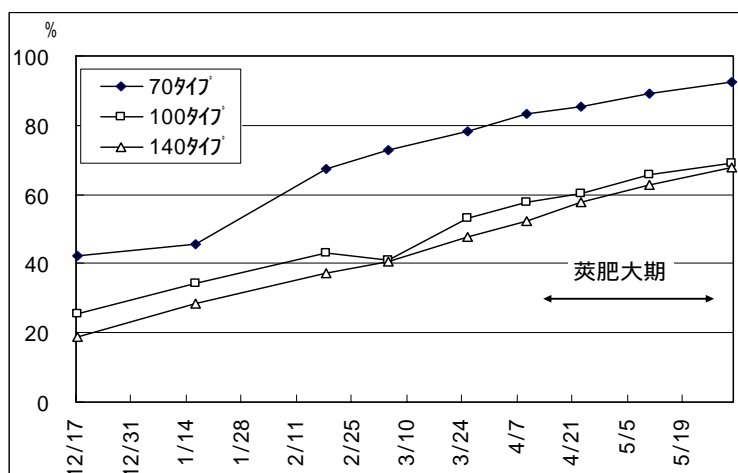


図1 溶出型の異なる被覆肥料のN溶出率

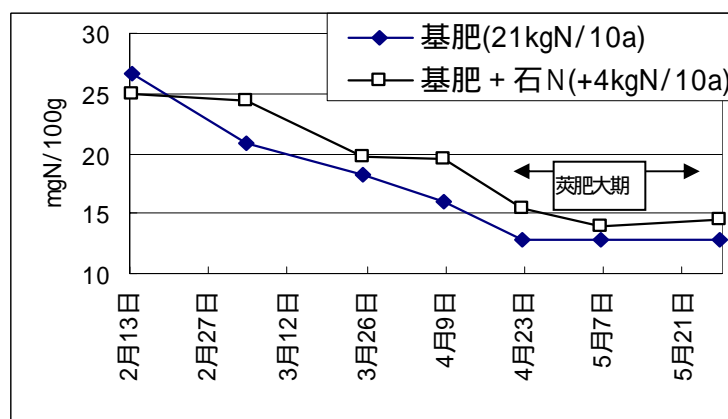


図2 土壤中無機態窒素量の推移 (園試圃場)

注) 畝から 10cm の位置の土壤

表1 収量調査

	収量 g/株	3粒莢率 %	備考
基肥(21kgN/10a)	1238	29.7	
基肥+石N(4kgN/10a)	1500	22.7	1粒莢含む
基肥+石N(8kgN/10a)	1459	36.0	

[その他]

研究課題名：一寸ソラマメの高品質化と省力栽培技術の確立

予算区分：国補

研究期間：2001～2003年度

研究担当者：辻岡 隆雄、加藤 公美